

20123456789101112345

さいたまけんりつ

H7.12.1

NO.66

図書館だより

図書館再発見



ごぞんじですか
児童奉仕



▶もつすぐクリスマスノ
という訳でクリスマス
の本を集めてみました。

- 心なごむ場所—子ども室— ●こんな資料もあります
- なつかしい児童書 ●おたずねください



彩の国さいたま



ごぞんじですか 児童奉仕



▲子ども室ってどんなところかな？

■心なごむ場所 子ども室

県立図書館の中で最もほっとする空間は、子ども室かもしれません。この部屋に入ると、大人でも心なごむものを感じるでしょうが、やはりそれを一番感じているのは子どもたちでしょう。この部屋には、絵本、物語などのいろいろな読み物や、紙芝居などが、一般の書架(本棚)よりも低めのものに配置され、並べられています。テーブルや椅子は子どもたちにあった大きさで、カウンターも低く、小学生ならカウンター越しに職員と顔と顔を合わせることができます。また、様々な飾り付けも子どもたちの心を弾ませてくれることでしょう。子ども室は、一般の資料室で子どもたちが受けるような心の圧迫感を少しでも取り除くように工夫されており、子どもたちにとって、そこにいて負担を感じにくい空間なのです。

■成長に合った資料

言うまでもないことですが、絵本や紙芝居、さし絵が多く大きめの文字を使ったかな表示の本などは、発達途上にある子どもたちの読む能力の負担を軽くしてくれるものです。図書館では、子どもたちは好みに応じて、自分の読書能力に合った物語や絵本を本棚から自由に選ぶことができます。これらは、一般の資料と同様に1人が3冊まで15日間館外に借り出すことができますし、館の中で自由に読むことができます。また、子どもたちに絵本や紙芝居を読んでもらうことも、この部屋では他の人の迷惑にならない範囲でしたらかまいません。埼玉県内で中学生～大学生の公共図書館の来館者は、3人のうち2人までが小さい頃から図書館を利用した体験を持っているという調査結果があります。図書館を利用した幼い頃の体験は、大きくなってからも図書館に親しみをもたせているようです。

■貯えられた資料

県立図書館は資料を集め保存することが大きな役割の一つです。もちろん子ども室の資料も数多く貯えられています。今では書店で手にいれることのできなくなった資料もたくさんありますし、なかにはふつう書店の店頭には並ばないものもあります。これらの資料は、児童文化や児童書を研究する人に役立つことでしょう。また、幼い頃読んだ本をもう一度手にとってみたいと思う人や、さらにそれをわが子にも読んであげたいと思うお父さんやお母さんにもこの貯えられた資料が役立ちます。このような資料は、子ども室に並べられているものは少なく、多くは奥の書庫(倉庫)に収められています。そのためふだんは目につきませんが、これらの資料も活用していただきたいので、ご希望の方はお気軽に、職員までおたずねください。

こんな資料もあります

—大正～昭和期の児童文芸雑誌・複製版(県立川越図書館所蔵)—



引用文献
 『新潮日本文学辞典』新潮社 1988
 『児童文学辞典』東京堂出版 1970

- 『赤い鳥』(大正7年～昭和11年)
 鈴木三重吉主宰。赤い鳥社刊。
 三重吉は、当時の児童読物が一般に低俗で童心への細かい配慮を欠く点を受けて芸術性の豊かな創作童話・童謡の確立を祈念しました。彼の呼びかけは、森鷗外をはじめほとんど全文壇の賛同を得ることになり、『赤い鳥』は大正中期以降の児童文学の隆盛をもたらす中核となりました。また、誌上で児童自らが創作活動に参加する道を開いた点も注目されます。
- 『金の船・金の星』(『金の船』大正8～11年；改題『金の星』昭和4年)

なつかしい児童書



大正期。それは、その期間の短かさにもかかわらず、文化的には大変ユニークな時代であったといわれます。児童文学

あるいは児童書出版にとっても、その後大きな影響を与えた童話作家の出現、児童読物の発刊が相ついでな時代でした。その時代に県立浦和図書館は開設されました。今回は、当時の出版物の中から当館所蔵のものをいくつか紹介します。まず、大正4年から昭和7年にかけて富山房から刊行されたものに『模範家庭文庫』というシリーズがあり、全部で24冊刊行されました。このうち『世界童話宝玉集』(楠山正雄編/岡本福一絵)『ガリバア旅行記』(平田充木訳/岡本福一絵)『西遊記』(中島孤島訳)など7冊を所蔵しています。それぞれ500ページ前後あり、また、カラー挿絵をふんだんに使い厚紙クロス表紙に色刷り口絵を貼り込んだ豪華な装丁からも、当時としては出色の児童書といえます。

おたずねください。子どもの本のこと



『3歳の子どもに絵本を読んでやりたいのだけれど、たくさんあって選べません。どんな本が良いのでしょうか?』そんな相談を大人の方からよく受けます。子どもは一人ひとり性格が違うように、本の好みも違います。子ども室では、その子が何に興味を持っているのか、最近ではどんな本がお気に入りなのか、などを聞きながら本棚をまわり、本を紹介していきます。また、本を選ぶ手助けに

なる本も紹介します。例えば、●絵本といっしょにひろがる世界—3歳児(3歳～4歳)が喜んだ本(高山智津子・篠原秀子共著 清風堂書店1994)読み聞かせ入門シリーズ(全12)の4巻目。3歳児の社会性の発達と絵本との関わりが分かりやすく書かれています。●私たちの運んだ子どもの本(東京子ども図書館 1991)幼児～中学まで段階別に本が挙げられていますが、子どもがその本をどう受けとるか、その本はどういう子に向くかなどに触れるように努めました。●えほんのせかい こどものせかい(松岡享子 日本エディタースクール出版部 1987)絵本と読み聞かせのガイドブック。などがありますので、御利用ください。

島崎藤村、有島生馬監修、キンノツノ社(改題後は、金の星社)刊。
 『金の星』は童謡に野口雨情、童話に沖野岩三郎を迎え『赤い鳥』『童話』と並ぶ児童文芸誌でした。「七つの子」「青い目の人形」等、雨情の代表的童謡の多くは同誌に発表されました。また寄稿家には若山牧水、志賀直哉らがいました。
 ■『童話』(大正9～15年)
 創刊当初はあまり特色がありませんでしたが、まもなく童話に小川未明、童謡に西条八十を迎え、川上四郎の絵と相まって、『赤い鳥』に劣らぬ芸術的童話雑誌となりました。企画に特色があり、当時の童話雑誌の中では浪漫的情調に富んでいました。

比較文学の資料集として貴重なのが、『世界童話大系 23巻』(松村武雄編/世界童話大系刊行会 大正13～昭和3)です。世界各国の伝承童話・童謡・近代古典童話などを集大成した画期的な資料集です。子供向きとはいえませんが研究資料としては貴重なものといえるでしょう。また、この姉妹編ともいべき『神話伝説大系 18巻』(近代社 昭和2～4)もあり、いずれも一般資料として所蔵しています。そのほかでは、『日本児童文庫 76巻』(アルス 昭和2～4)と『小学生全集 88巻』(文芸春秋 昭和2～5)を所蔵していますが、いずれも欠号があり完全ではありません。問い合わせ 県立浦和図書館 048-829-2821 (内39)

Q: ローラ・インガルス・ワイルダー作『大草原の小さな家』が大好きです。アメリカに行って、話の舞台になっている場所を見たいと思っています。何か参考になる本はないでしょうか?
 A: あります。実際その舞台となった地に足を運んで書かれた本を紹介します。●大草原の小さな家—ローラのふるさとを訪ねて—(ウィリアム・アンダーソン 求龍堂 1989)大部分が写真です。●『大草原の小さな家』の旅(服部奈美 文芸春秋 1994)物語に強く魅せられた著者が、その地を旅した時のエッセーです。●大草原のローラ—90年間の輝く日々—(ウィリアム・アンダーソン 講談社 1994)ローラの伝記。ローラ自身の日記や随筆などが引用されているので、ローラの人柄や生活がよく分かります。

県立浦和図書館 ☎048-829-2821

映画会

- 12月1日(金)14時
☞「鉄路の白薔薇(下)」
- 12月9日(土)10時
☞「消えた野犬」ほか
- 12月15日(金)14時
☞「フランケン・シュタイン」
- 12月22日(金)14時 ☞「おおきなかぶ」ほか
- 1月13日(土)10時
☞「犬塚」 ☞「森の友だち」
- 1月19日(金)14時
☞「巴里の屋根の下」
- 1月26日(金)14時
☞「生まれてはみたけれど」
- 2月2日(金)14時 ☞「制服の処女」
- 2月10日(土)10時
☞「南島のシシ白耳」ほか
- 2月16日(金)14時
☞「モヒカン族の最後」
- 2月23日(金)14時
☞「森の中の淑女たち」

県立久喜図書館 ☎0480-21-2659

映画会

- 12月1日(金)14時
☞「うみ・そら・さんごのいっただえ」
- 12月9日(土)14時 ☞「風の又三郎」
☞「注文の多い料理店」
- 12月15日(金)14時 ☞「偽りの晚餐」
- 12月24日(日)10時、14時
☞「ミッキーマウスと魔法の帽子」ほか
- 1月6日(土)14時
☞「やさしいライオン」ほか
- 1月13日(土)14時 ☞「大雪山の勇者牙王」
- 1月19日(金)14時 ☞「自由を我等に」
- 1月27日(土)14時 ☞「ドンマイ」
- 2月2日(金)14時 ☞「戦士の休息」
- 2月10日(土)14時 ☞「ふたりのローラ」
- 2月13日(火)14時
☞「東大寺大仏殿昭和の大修理」ほか
- 2月24日(土)14時 ☞「次郎物語」

催し物

- 12月22日(金)14時 ☞「劇:オズの魔法つかい」ほか(対象 4才~小学生)
- 1月23日(火)30分(火)2月6日(火)10時
児童文化講座「わらべうたであそぼう」
—わらべうたから文学のたのしみ—
講師:中川享子氏
会場:宮代町立図書館

子ども・親子向け
大人向け



映画会



催し物



うみ・そら
さんごの
いっただえ
海・空、きしめく珊瑚、そして少年たちが待っていた……

注文の多い料理店

山奥で道に迷ってしまった2人は立派な一軒の西洋料理店を見つけます。ところが……



牙王
大自然を舞台にくりひろげられる狼の子牙王とヒグマの対決!

年末・年始の休館のお知らせ

平成7年12月27日(水)~
平成8年1月5日(金)
の期間、県立4図書館は休館となります。(但し浦和図書館は12月27日まで開館)

特別整理期間(休館)のお知らせ

平成8年2月14日(水)~23日(金)
県立川越・久喜図書館は休館となります。

◆くわしくは各館までお問い合わせください。

県立熊谷図書館 ☎0485-23-6291

映画会

- 12月2日(土)10時、14時 ☞「凱旋門」
- 12月15日(金)14時
☞「東西の接点イスタンブルを歩く」
☞「ゲートボールの青春」
- 12月26日(火)10時、14時
☞「おおきなかぶ」 ☞「どんぐりと山猫」 ☞「スノーマン」
- 1月6日(土)10時、14時 ☞「若草物語」
- 1月13日(土)10時30分
☞「おにたのぼうし」 ☞「やまなし」
☞「王さまの耳はろばの耳」
- 1月19日(金)14時
☞「文明を湛える海—地中海世界—」
☞「高潮舟」
- 2月3日(土)14時 無声映画のつどい
☞「滝の白糸」 弁士/澤登 翠氏
※要整理券 1月10日より受付
- 2月10日(土)10時30分 名作子ども映画会
☞「ひつじのようなライオン」 ☞「ぶんぶくちやがま」 ☞「アステリックスのぼうけん」
- 2月16日(金)14時
☞「小さな町の牧童たち」

県立川越図書館 ☎0492-44-5602

映画会

- 12月26日(火)10時、14時
☞「宝島」
- 1月13日(土)10時、14時
☞「鬼の子とゆきうさぎ」ほか
- 1月19日(金)10時、14時
☞「イタズ」
- 2月10日(土)10時、14時
☞「パパロフさんこんばんわ」ほか
- 2月27日(火)14時
☞「四季の祈り—彩の国さいたま」ほか

映画と音楽のつどい

- 馬頭琴伝説と音楽会—
- 12月9日(土)13時30分
映画:「白い馬」
馬頭琴演奏:チンゲルト氏

